

インターネットを利用したリアルタイム情報

箱根町



箱根町役場 トップページ

<http://www.town.hakone.kanagawa.jp/>



箱根町役場 防災情報

<https://www.town.hakone.kanagawa.jp/index.cfm/10,0,46,163,html>



箱根町 メールマガジン

<https://www.town.hakone.kanagawa.jp/index.cfm/11,2093,51,192,html>



箱根町
交通防災情報統合webサイト

<http://www.town.hakone.kanagawa.jp/index.cfm/10,25390,46,163,html>

気象情報



気象庁 トップページ

<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>



神奈川県 災害情報ポータル

<https://www.bousai.pref.kanagawa.jp/>

土砂災害情報



神奈川県 土砂災害情報ポータル

<https://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html>

雨量・水位情報



神奈川県 雨量・水位情報

https://www.pref.kanagawa.jp/sys/suibou/web_general/suibou_joho/

ライブカメラ



箱根町 ライブカメラ

<https://www.hakone.or.jp/7273>



神奈川県 ライブカメラ

<http://orange.zero.jp/zad23743.oak/livecam/kanagawa.htm>

ライフライン



東京電力
停電情報

<https://teideninfo.tepco.co.jp/html/1438200000.html>



水道
断水情報 箱根水道パートナーズ

<https://hakone-sc.com/>



ガス
小田原ガス

<https://www.odawaragas.co.jp/>

公共交通



箱根登山電車

<https://www.hakone-tozan.co.jp/>



箱根登山バス

<https://www.hakone-tozanbus.co.jp/>



伊豆箱根バス

<http://www.izuhakone.co.jp/bus/>



目次

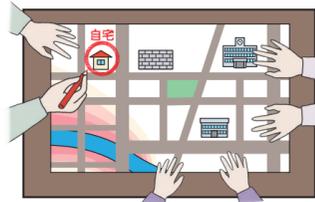
はこね防災ガイドブックの使い方	P1	避難所生活での心得	P26
避難に関する情報	P2	自主防災組織	P27
地震に備えて	P3・4	地域の防災対策	P28
風水害に備えて	P5・6	災害時のペット対策	P29
土砂災害に備えて	P7・8	被災時に役立つ情報	P30
その他の災害について	P9	わが家の防災対策	P31
箱根ジオパークの観点からみる箱根町の災害	P10	家庭でできる浸水対策	P32
情報収集手段について	P11・12	災害時に使える英会話	P33
はこね防災マップ(全域図)	P13・14	応急手当	P34
はこね防災マップ(詳細図)	P15~24	マイ・タイムライン	P35・36
避難所・避難場所一覧	P25	備蓄品および非常時持ち出し品	P37
		わが家の防災メモ	P38

はこね防災ガイドブックの使い方

「はこね防災ガイドブック」には、土砂災害・洪水ハザードマップのほか、災害の種類や災害時の注意点など減災に役立つ情報を掲載しています。また、本冊子とは別に作成したポスター型の「はこね防災マップ」もありますので、併せて活用してください。「危険箇所」、「避難する場所」、「避難経路」など必要な情報を書き込み、「自分だけのハザードマップ」を作成しましょう。

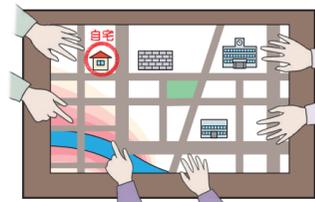
1 自宅の位置を確認する

まず、自宅の位置に印をつけましょう。



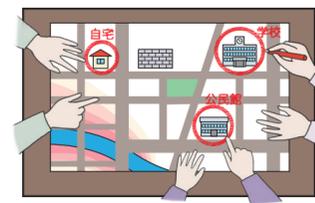
2 洪水浸水や土砂災害などの危険を確認する

ハザードマップを見て、自宅周辺が災害の危険区域になっていないか確認してください。



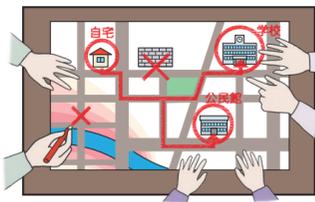
3 安全な避難経路を考える

避難所・避難場所までの経路を考えましょう。早めに避難するのが一番ですが、すでに荒天となった場合は「浸水の危険のある場所」を避ける、地震による避難の場合は「ブロック塀等の危険な場所を避ける」など、安全な経路を見つけておきましょう。



4 避難について家族や近所の人と話し合う

「周辺の危険箇所」「避難する場所」「避難経路」などについて、家族や近所の人と話し合っておきましょう。いざというときには、慌てず、声を掛け合って、最善の避難行動がとれるように心構えをしておきましょう。



5 自分たちの目で避難経路を確認する

避難所・避難場所までの経路を、実際に家族や近所の人たちと歩いてみましょう。マップ上では気が付かなかった危険箇所や注意点など記録しておきましょう。



6 避難時の持ち出し品などを準備しておく

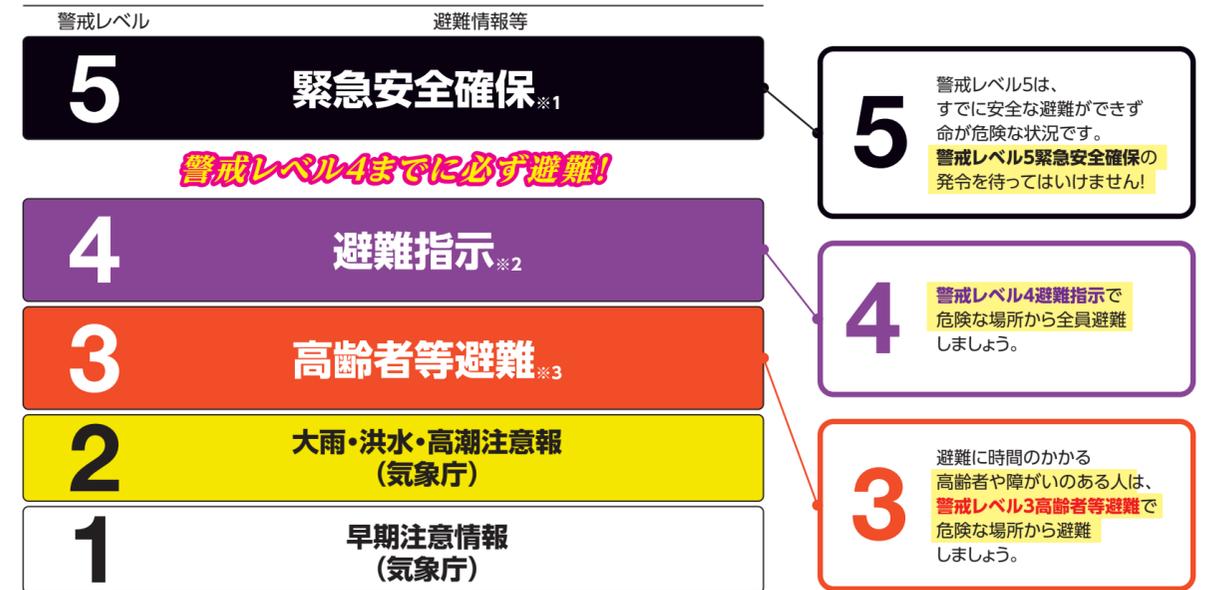
37ページの「備蓄品および非常時持ち出し品」を参考に、避難するときの持ち出し品など、必要なものを準備しておきましょう。



避難に関する情報

町が出す避難情報と国や県が出す防災気象情報

洪水や土砂災害、河川の氾濫などの際に、5段階の「警戒レベル」を用いた避難指示などの避難情報を発信します。**警戒レベル5【緊急安全確保】、警戒レベル4【避難指示】**または**警戒レベル3【高齢者等避難】**が発令された場合は、避難行動をとりましょう。



※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令される情報ではありません。
 ※2 避難指示は、これまでの避難勧告のタイミングで発令されることとなります。
 ※3 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、危険を感じたら自主的に避難するタイミングです。

特別警報 (気象庁が公表)

- これまで経験したことのない大雨が予想されています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- 特別警報が出てからの避難では遅いです。

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により 高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合
津波	高い所で3メートルを超える津波が予想される場合 (大津波警報を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合 (噴火警報(居住地域)*を特別警報に位置づける)
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合 (緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

(*)噴火警戒レベルを運用している火山では「噴火警報(居住地域)」「噴火警戒レベル4または5」を、噴火警戒レベルを運用していない火山では「噴火警報(居住地域)」(キーワード:居住地域厳重警戒)を特別警報に位置づけています。

地震に備えて

想定される地震

箱根町では、神奈川県地震被害想定調査報告書(平成27年3月)に基づき、都心南部の直下を震源とする「都心南部直下地震」、神奈川県西部を震源とする「神奈川県西部地震」、南海トラフを震源とする「南海トラフ巨大地震」などを想定しています。箱根町でこのような地震が発生した場合、町内で最大震度6の揺れが発生します。特に「神奈川県西部地震」では大きな人的・物的被害が発生し、ライフライン関係にも影響が出ることが予測されています。地震により発生した土砂崩れ等で道路が寸断され、孤立する地域が発生する可能性もありますので、町民の皆様には、「自らの身は、自ら守る(自助)」の心構えを念頭に、「皆のまちは、皆で守る(共助)」ことに努めていただき、被害を最小限に抑えていくことが大切です。

震度の違いと被害想定

0		人は揺れを感じないが、地震計には記録される。	5		大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
1		屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	6		大半の人が、物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。
2		屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。	7		立っていることが困難になる。
3		屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。歩いている人の中には、揺れを感じる人もいる。眠っている人の大半が目覚めます。			立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。
4		ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが目覚めます。			

緊急地震速報

大きな地震が来る直前には、テレビ・ラジオ・スマートフォンなどで緊急地震速報が流れることがあります。躊躇せず、体を低くし、頭を守る姿勢を取って身構えてください。

マグニチュードと震度

マグニチュード

マグニチュードとは、地震そのものの大きさ(規模)を表します。一般にマグニチュードにより、次のように表現しています。

マグニチュードM8程度以上	⇨	巨大地震
マグニチュードM7以上	⇨	大地震
マグニチュードM5以上M7未満	⇨	中地震
マグニチュードM3以上M5未満	⇨	小地震
マグニチュードM1以上M3未満	⇨	微小地震
マグニチュードM1未満	⇨	極微小地震

震度

震度とは、地震の際の各地点の揺れの強さを表します。一般的に、マグニチュードが大きいても震源が遠い場合や深い場合は、震度が小さく、マグニチュードが小さくても震源が近い場合や浅い場合は、震度が大きくなります。

地震発生時のタイムライン (自宅等にいた場合)

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、自分の身を守る。(机の下に隠れたり、手近な座布団などで頭を保護する。)



1~2分

揺れがおさまったら

- すばやく火の確認、ガスの元栓、ストーブ、コンセントを切る。(火が出たら、落ち着いて初期消火※初期消火の限界は炎が天井にどく前まで。)
- 家族の安全を確認(倒れた家具の下敷きになっていないかを確認)
- ドアや窓を開けて逃げ道を確認
- 靴などをはく。(ガラスの破片の散乱から足を守るため、靴や厚手のスリッパをはく。)
- 室内に居ることが危険だと判断した場合、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する。
- 避難するときは、屋根がわらの落下やブロック塀・自動販売機などの転倒に注意

3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 隣近所で助け合う。(要配慮者の安全確保をする。)
- 行方不明者はいないか。
- ケガ人はいないか。



出火防止・初期消火

- 消火器を使う。
- 座布団、毛布、大きめのタオルなどの活用
- 漏電・ガス漏れに注意(ガスの元栓・電気ブレーカーを切る。)
- 余震に注意
- 火災発生時の初期消火(バケツリレー)
- 風呂の水はため置きしておく(ただし、乳幼児のいる家庭では浴槽への転落防止のため工夫しましょう。)

5分

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる。
- 救出・救護
- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように。
- 避難時に車は原則として使用しない。
- 電話は緊急連絡を優先する。



10分

協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう。(最低でも3日間、できれば1週間分備蓄しておく)
- 災害情報・被害情報の収集
- 風呂水をため置きしておく。
- 避難所情報を確認する。
- 助け合いの心が大切
- こわれた家には入らない。
- 引き続き余震に注意
- 無理はしない。



数時間

3日

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、揺れがおさまってからすばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認は揺れがおさまってからすまやかにする。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者、避難行動要支援者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない。



デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、柱や壁ぎわに身を寄せる。
- 係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。
- 商品の落下やショーケースの転倒、ガラスの破片に注意する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠す。
- 係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、周りの危険物に注意し、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、堅牢な建物など安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 風呂の水はため置きしておく(ただし、乳幼児のいる家庭では浴槽への転落防止のため工夫しましょう。)
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、安全を確認して道路の左側に停車する。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要ときは、キーはつけたまま、ドアロックもしないで、車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。
- 車内に自分の連絡先を書いたメモを残す。
- 路上駐車を避け、駐車場や広場に停める。

海岸付近

- 高台へ避難し津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは海岸に近づかない。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



風水害に備えて

大雨情報をキャッチ! こんなときわが家の安全対策



大雨注意報・警報・特別警報(浸水害・土砂災害)の発表基準

下記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。

大雨注意報	大雨によって災害が起こるおそれがあると予想される場合
大雨警報	大雨によって重大な災害が起こるおそれがあると予想される場合
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合

雨の強さと降り方 (単位:mm/時)

10以上~20未満 「やや強い雨」 「ザーザーと降る」	20以上~30未満 「強い雨」 「どしゃ降り」	30以上~50未満 「激しい雨」	50以上~80未満 「非常に激しい雨」	80以上~ 「猛烈な雨」
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づら。側溝や小さな川があふれる。	バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要	滝のように降り、あたりが水しぶきで白くなる。マンホールから水が噴出する。がけ崩れが起りやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる雨。雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

台風の大きさと強さの目安

大きさ		風速15m/秒以上の半径	強さ		最大風速 (m/秒)
大型(大きい)	500km以上~800km未満	800km以上~	強い	33m/秒以上~44m/秒未満	44m/秒以上~54m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上~		非常に強い	44m/秒以上~54m/秒未満	
			猛烈な	54m/秒以上	

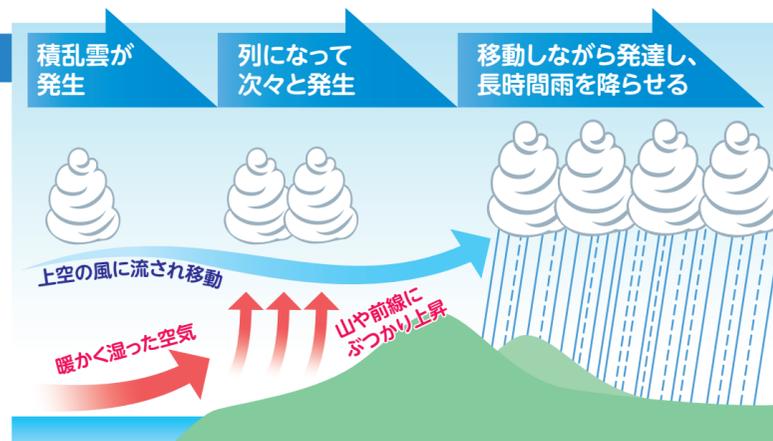
集中豪雨

集中豪雨は、前線や低気圧などの影響や雨を降らせやすい地形の効果によって、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより発生します。激しい雨が数時間にわたって降り続き、河川の氾濫や土砂災害などによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意をする。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持ち出し品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 浸水に備えて家財道具は高い所へ移動する。
- 飲料水や食料を最低でも3日分、できれば1週間分確保しておく。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。
- 屋上の物は片付けるか固定する。

線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50~300km程度、幅20~50km程度の強い降水をとまなう雨域をいいます。線状降水帯の多くは暖候期に発生し、大きな災害の要因となる集中豪雨を引き起こすことがあります。



避難時の心得

外水氾濫

扉の下の隙間から污水が入ってくるので、「土のう」や板などで前面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ポリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



避難の呼びかけに注意を

危機が迫った時には、防災行政無線や広報車などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに近所に声掛けしながら避難しましょう。



避難の前に確認を

避難する時は、電気のパレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



避難所までの移動

車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げになります。また、浸水すると動かなくなるので使わないようにしましょう。風雨が激しくなる前に車両または徒歩で避難しましょう。風雨が激しくなってきたときは浸水の恐れがあるので車両ではなく徒歩で避難しましょう。



危険なところには近寄らない

切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないようにしましょう。また、氾濫水には污水が混ざっているため、子供などがさわらないように気をつけましょう。



動きやすい格好で

動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットがある場合はかぶり、はき物は水に浸かっても歩きやすいものを選びましょう。レインコートは上下が分かれているタイプで目立つ色のものがよいでしょう。



水面下は危険です。2人以上で避難を

浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認し、2人以上での行動を心がけましょう。



歩ける深さ男性約70cm、女性約50cm

洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上になったら高い場所で救助を待ちましょう。



川の氾濫等

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫

大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を超える、あるいは堤防が決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水をいいます。氾濫が起きると一気に水かさが増すので、最大の注意が必要です。



内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれず溜まって起きる洪水をいいます。的確なタイミングで警報や避難勧告を出すのが難しいため、注意が必要です。



浸水の深さについて

10m以上	10m以上の区域
5m~10m未満(3階床上浸水~4階軒下浸水)	5m~10m未満の区域
3m~5m未満(2階床上~軒下浸水)	3m~5m未満の区域
1m~3m未満(1階床上~軒下浸水)	1m~3m未満の区域
0.5m~1m未満(1階床上浸水)	0.5m~1m未満の区域
0.5m未満(1階床下浸水)	0.5m未満の区域

「はこね防災ガイドブック」では、想定される浸水の深さを色別で示しています。

土砂災害に備えて 少しでも異常を感じたら、すぐに避難しましょう。

土砂災害の種類

突発的に発生し、すさまじい破壊力で一瞬にして多くの生命や財産を奪ってしまう土砂災害は、大きく3種類に分けることができます。

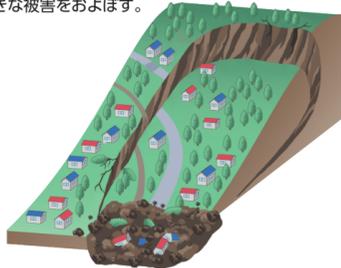
がけ崩れ・山崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちる。日本で最も多い土砂災害で、人家の近くでも発生するため、逃げ遅れて犠牲になる人も多い。



地すべり

脆弱な地質の土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が地下水の影響と重力で下方へ移動する現象をいう。一度に広範囲で発生するために、住宅や道路などに大きな被害をおよぼす。



土石流・山津波

谷や斜面にたまった土や石、砂などが、大雨による水と一緒に一気に流れ出す。強大な威力と圧倒的なスピードで進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊滅させていく。



土砂災害から身を守るために

土砂災害の危険がせまったときには、すばやく避難することが大切です。いつもと違う大雨が降っているときには、避難準備をし、避難する覚悟をしてください。以下のような事象はすでに土砂が流れ出ている可能性がありますので、垂直避難など命を守るための避難を開始してください。

- がけからの水がにごる。
- 地下水やわき水が止まる。
- 斜面がひび割れ、変形がある。
- 小石が落ちてくる。
- がけから音がする。
- 異様なにおいがする。

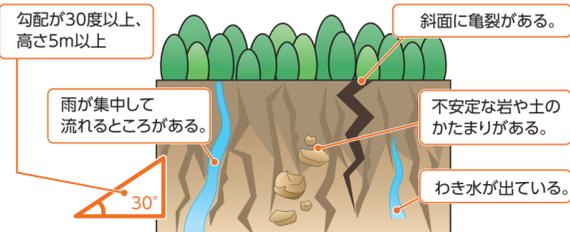
- 地面にひび割れができる。
- 井戸や沢の水がにごる。
- がけや斜面から水がふき出す。
- 家やよう壁に亀裂が入る。
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く。

- 山鳴りがする。
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。
- 川の水がにごったり、流木が混ざったりする。

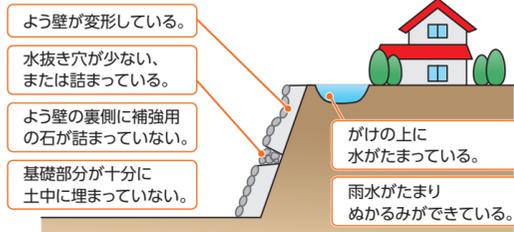
危険箇所をチェックしよう

勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。また、がけや盛り土の崩落を防ぐためのよう壁も、その構造や築年数の経過によっては崩れる危険性があります。日ごろから家の周囲をよく見て、危険箇所がないかチェックしておきましょう。

こんながけに注意!!



こんなよう壁に注意!!



土砂災害警戒情報とは

土砂災害警戒情報は、大雨により土砂災害の危険度が高まった時に、気象庁と神奈川県が共同で発表する情報です。情報は市町村単位で発表され、町の防災活動や避難指示等の判断を支援し、住民の皆さんの自主避難の判断にも利用できます。自宅近くが土砂災害(特別)警戒区域に指定されている場合は、非常に危険な状態になりますので、早目に避難をしましょう。

気象庁

<https://www.jma.go.jp/jp/dosha/>



神奈川県土砂災害情報ポータル

<https://dosyasaigai.pref.kanagawa.jp/website/kanagawa/gis/index.html>



イエローゾーン・レッドゾーン

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域

土砂災害警戒区域・土砂災害特別警戒区域は、*土砂災害防止法に基づき、神奈川県が指定しています。

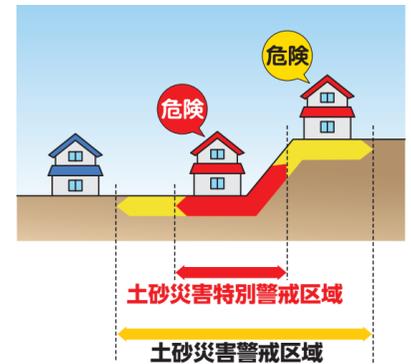
*土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律

土砂災害警戒区域 (通称:イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域をいいます。危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

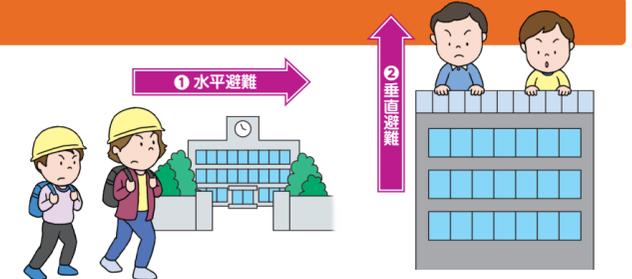
土砂災害特別警戒区域 (通称:レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域をいいます。特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。



避難行動のポイント

1. P7の土砂災害の種類に注意し、早めの避難をする。
2. 土石流やがけ崩れの起こる方向に対して横方向に避難(①水平避難)する。
3. 夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(②垂直避難)することも考慮しましょう。
4. 土砂災害警戒情報が発表された場合は、すぐに避難を行う。
5. 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難を行う。



過去の地すべり災害～須沢・早雲山の砂防工事と地すべり対策工事について～

昭和28年7月26日に、強羅地区を流れる須沢の源頭部(早雲山)で地すべりが発生し、沢に沿って流れ出した土砂は土石流となって下流の強羅橋までの2kmの距離を毎秒7m(時速25km)の速さで流下し、約80万立方メートルの土砂を堆積させる災害が発生しました。この土石流によって、下流にあった道と尊別院と砂防えん堤17基、道路140m、山林7haが土砂に埋没し、観光客など28名の死傷者を出す悲惨な災害となりました。



災害発生前の須沢



災害発生直後の須沢

この災害の発生後、県土木事務所小田原土木センターによって、須沢では4期にわたり一連の砂防施設の整備が進められたほか、早雲山では地すべり対策工事として、新素材を用いたアンカー工を平成8年度から着手し、下流部の須沢での砂防工事と一体として土砂災害を防止する対策工事を行っています。



須沢砂防堰堤群



早雲山地すべり対策工事状況写真

その他の災害について

火山災害

箱根山は今からおよそ40万年前に活動を始めた活火山です。度重なる噴火活動により、変化に富んだ地形を作り出し、美しい稜線、湖、湿原などが生まれました。地下のマグマから発せられる熱によって、大涌谷などで見られる噴気や山麓のあちこちで良質の温泉が湧きだし、地域の活性化をもたらしています。一方で箱根山は、たびたび火山活動が活発化し、噴火警戒レベルが引き上げられるなど、現在も活動を続ける活火山であり、気象庁・神奈川県(温泉地学研究所・環境科学センター)・国土地理院・大学研究機関・町による継続的な監視や箱根山火山防災協議会による火山災害への対策の検討が行われています。

火山噴火に伴う災害 火山は時として大きな災害を引き起こし、人や建物などに被害をもたらします。箱根町で起こりうる現象をまとめました。

- 降灰**
火山灰が風の影響を受けて広域に落下、堆積します。農作物、交通機関、建造物に影響があります。
- 噴石**
直径数cmから数十cmの礫が飛散します。火口付近では小さな噴石でも当たり所が悪いと生命の危険があります。
- 溶岩流**
マグマが溶岩となって流出します。
- 火砕流・火砕サージ**
噴火による破片上の固形物質と火山ガス等が混合状態で地表に沿って流れる現象です。速度は時速数百km以上、温度は数百℃に達することもあります。
- 火山泥流・土石流**
火山泥流は火山の噴出物が水域に流入し、水と混合して地表を流れる現象です。流速は時速数十kmに達することがあります。土石流は土砂と水が混合して流れ出る現象です。

噴火警戒レベル 噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を5段階に区分したものが噴火警戒レベルです。箱根山の現在の噴火警戒レベルの段階や規制の範囲は気象庁のHPで確認ができます。

箱根山噴火警戒レベルの種類	名称	レベル	状況
気象庁トップページ https://www.jma.go.jp/jma/index.html 	噴火警報(居住地域)	5	避難
	噴火警報(火口周辺)	4	高齢者等避難
	噴火警報(火口周辺)	3	入山規制
	噴火警報(火口周辺)	2	火口周辺規制
	噴火予報	1	活火山であることに留意

竜巻による災害

竜巻は、台風・寒冷前線・低気圧などに伴って発生します。短時間で狭い範囲に集中して被害をもたらすことが特徴です。

もしも竜巻が間近に迫ってきたら すぐに身を守るための行動をとってください。一番は頑丈な建物の中に避難することです。

- 屋内にいる場合**
・窓、雨戸、シャッターなどを閉め、窓から離れた場所に移動する。
- 屋外にいる場合**
・建物の中に避難する。ただし、物置、車庫、プレハブなどは避ける。
・近くに建物がない時は、くぼみなど身を隠せる場所で頭と首を守る。
・電柱や樹木は倒壊の危険があるため近づかない。



竜巻注意情報・竜巻発生確度ナウキャスト 気象庁が発信している注意情報と気象情報です。気象庁HPの「気象情報ページ」で確認できます。



箱根ジオパークの観点からみる箱根町の災害

箱根の地形

箱根町の町域はすべて箱根火山に含まれています。現在、私たちが直接目にすることができる箱根火山の姿はおよそ40万年前から現在まで繰り返されてきた火山活動によって形作られたものです。このため箱根火山には火山地形の博物館と言われるほど変化に富んだ「多様な地形」が分布しています。途方もなく長いと思われる40万年という時間ですが、約46億年とされる地質学的な時間の尺度から見るとごく短い時間であり、それだけ箱根の地形も新しく、「天下の険」とも例えられる「急峻さ」も特徴の一つになっています。



宇宙から見た箱根(神奈川県立 生命の星・地球博物館提供)



令和元年東日本台風による土砂崩れ

土砂災害の起きる仕組み

傾斜した地盤には、重力により絶えず地盤を壊そうとする傾斜方向の「力」が加わっています。その「力」に対抗する地盤の「強度」は地表付近の地質や地形のほか、地下水や植生、土地利用の状況などによって決まっています。「強度」が「力」を上回っている限り地盤は安定を保つことができますが、大雨時などに、表流水や地下水の流れが地層の境界や傾斜の変換点など特定の場所に集中すると、地盤の「強度」を下げることで、結果的に地盤が壊れ、土砂災害を引き起こすことがあります。

雨のもたらす恵みと災害

滴々と水をたたえる芦ノ湖や町内各所に点在する湧き水は、いずれも箱根火山に降った雨を源としています。箱根の水の豊かさは、この地にそれだけ多くの雨が降っていることの裏返しでもあります。急峻な地形が広く分布する箱根は、大雨による土砂災害のリスクと常に隣り合わせな場所なのです。令和元年東日本台風の際には気象庁による日降水量の観測記録を更新する922.5mmの大雨が降り、土砂崩れや冠水により幹線道路や鉄道が寸断されるなど大きな被害を生じました。今後も同様の災害が発生する可能性は否定できません。日ごろから、身近に起こりうる土砂災害のリスクについて理解し備えることが重要です。

石碑から災害を学ぶ!自然災害伝承碑の取組

「自然災害伝承碑」とは

過去に発生した津波、洪水、火山災害、土砂災害等の自然災害に係る事柄(災害の様相や被害の状況など)が記載されている石碑やモニュメント。これら自然災害伝承碑は、当時の被災状況を伝えると同時に、当時の被災場所に建てられていることが多く、それらを地図を通じて伝えることは、地域住民による防災意識の向上に役立つものと期待されます。

箱根町内でも、大正12年の関東大震災、昭和5年の北伊豆地震、昭和23年のアイオン台風、昭和28年の早雲山の地すべり等の災害に見舞われ、犠牲者も発生しました。箱根町内で起きた自然災害を風化させず後世に語り継ぎ、今後の災害に備えるため、箱根ジオパーク活動の一環として取り組んでおり、令和3年9月時点で10基の石碑が国土地理院のウェブ地図「地理院地図」で公開されています。皆さんの身の回りにこのような石碑等がありましたら、情報の提供をお願いします。

【情報提供先】
箱根ジオパーク推進協議会事務局
(企画課 ☎85-9560)



自然災害伝承碑HP



昭和5年に発生した北伊豆地震の石碑(写真)



自然災害伝承碑の地図記号(右)とウェブ地図「地理院地図」表示用のアイコン(左)。(国土地理院提供)

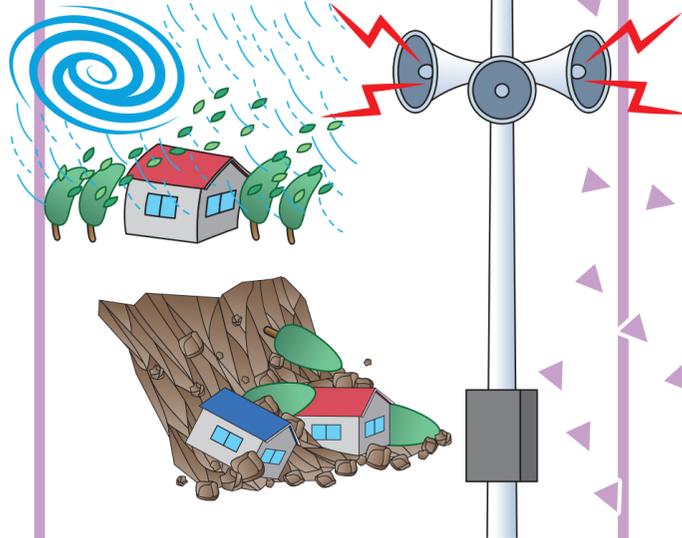
情報収集手段について

箱根町では、防災行政無線で放送した災害情報・避難情報を次の手段でお知らせしています。

登録・ご利用方法

防災行政無線

町が発信する情報



全国瞬時警報システム
(Jアラート)

国が発信する
緊急地震速報や
国民保護情報など

スマートフォン パソコン等



メールマガジン

町のさまざまな情報をメールマガジンで無料配信しています。
防災情報を希望する場合は、「防災メール」を選択する必要があります。

登録方法

バーコードリーダー機能付き携帯電話・スマートフォンの方は右記QRコードから登録してください。
それ以外の方は、町HPのメールマガジンの登録フォームから登録をしてください。



Twitter

箱根町防災対策室 (@hakone_bousai) にて、放送内容を発信しています。

緊急速報メール

国や県・町の災害情報、国民保護情報など、緊急性の高い情報をエリア内の端末に一斉に配信します。

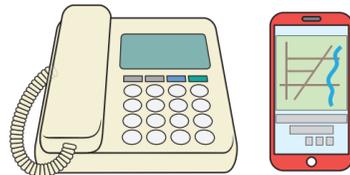
テレビ



テレビ神奈川データ放送

- ①テレビ神奈川 (tvk・地デジ3ch) でリモコンの「d」ボタンを押します。
- ②リモコンで「緑」ボタンを押し、箱根町の行政情報の「防災安全情報」を押します。
- ③防災安全情報の中から詳しく知りたい情報を選択してご確認ください。

固定電話 スマートフォン等



防災行政無線テレホンサービス

放送した内容が聞き取れない場合、電話で確認ができます。

フリーダイヤル ※通話料金はかかりません。

0120-856-050 (必ず0120からおかけください。)

- 24時間経過した内容は削除されます。
- 一度に複数の方が利用すると繋がらない場合があります。その際はおかけなおしてください。

戸別受信機



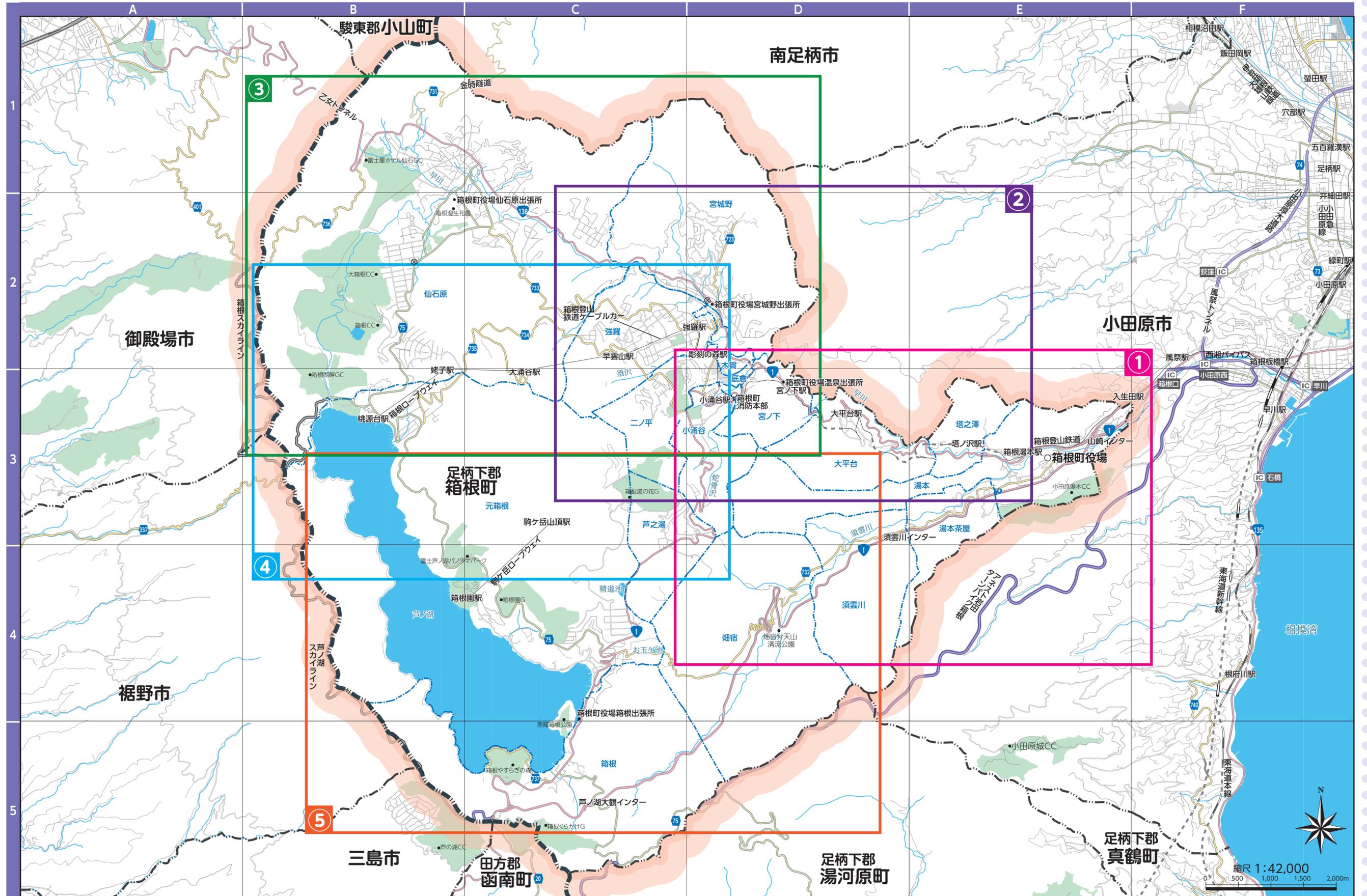
戸別受信機

戸別受信機は屋内で放送を受信できます。AC電源のほか、乾電池でも稼働します。

● 戸別受信機は購入していただく必要があります。

希望される方は町総務防災課 (85-9561) にご相談ください。

はこね防災マップ (全域図)



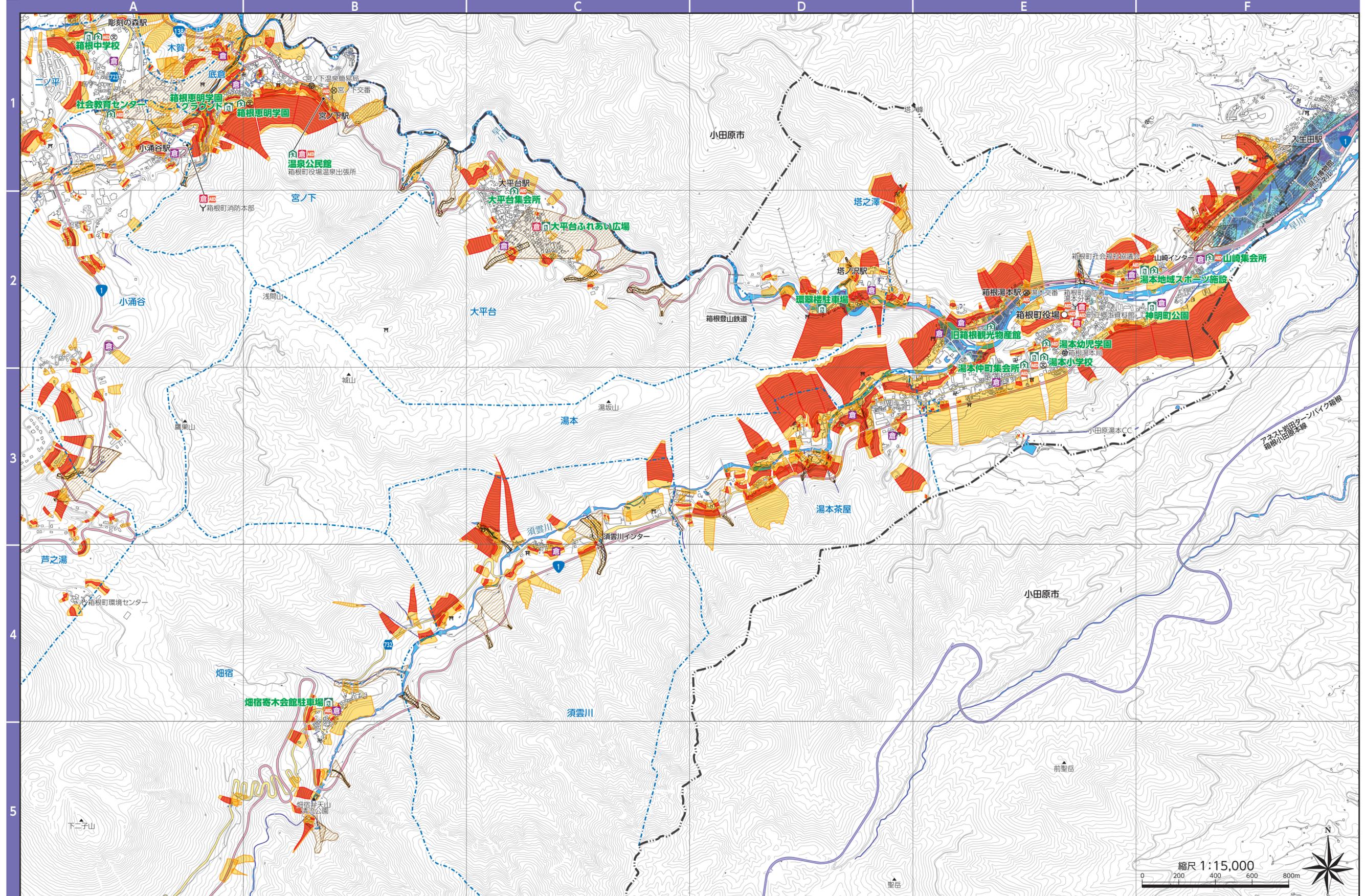
【測量法に基づき国土地理院院長承認（使用）R 2.H4. 294-329号】
 【この図版の作成にあたっては、国土地理院院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。（承認番号 令和 第 807-150号）】
 【© 2024 国土院】

はこね防災マップ (詳細図①)

避難場所・避難所等			
凡例	避難場所	町防災倉庫	AED
	避難所	自主防災倉庫	

土砂災害	
特別警戒区域 (急傾斜)	特別警戒区域 (土石流)
警戒区域 (急傾斜)	警戒区域 (土石流)

浸水想定区域		
0.5m未満の区域	1.0m~3.0m未満の区域	5.0m~10.0m未満の区域
0.5m~1.0m未満の区域	3.0m~5.0m未満の区域	10m以上の区域



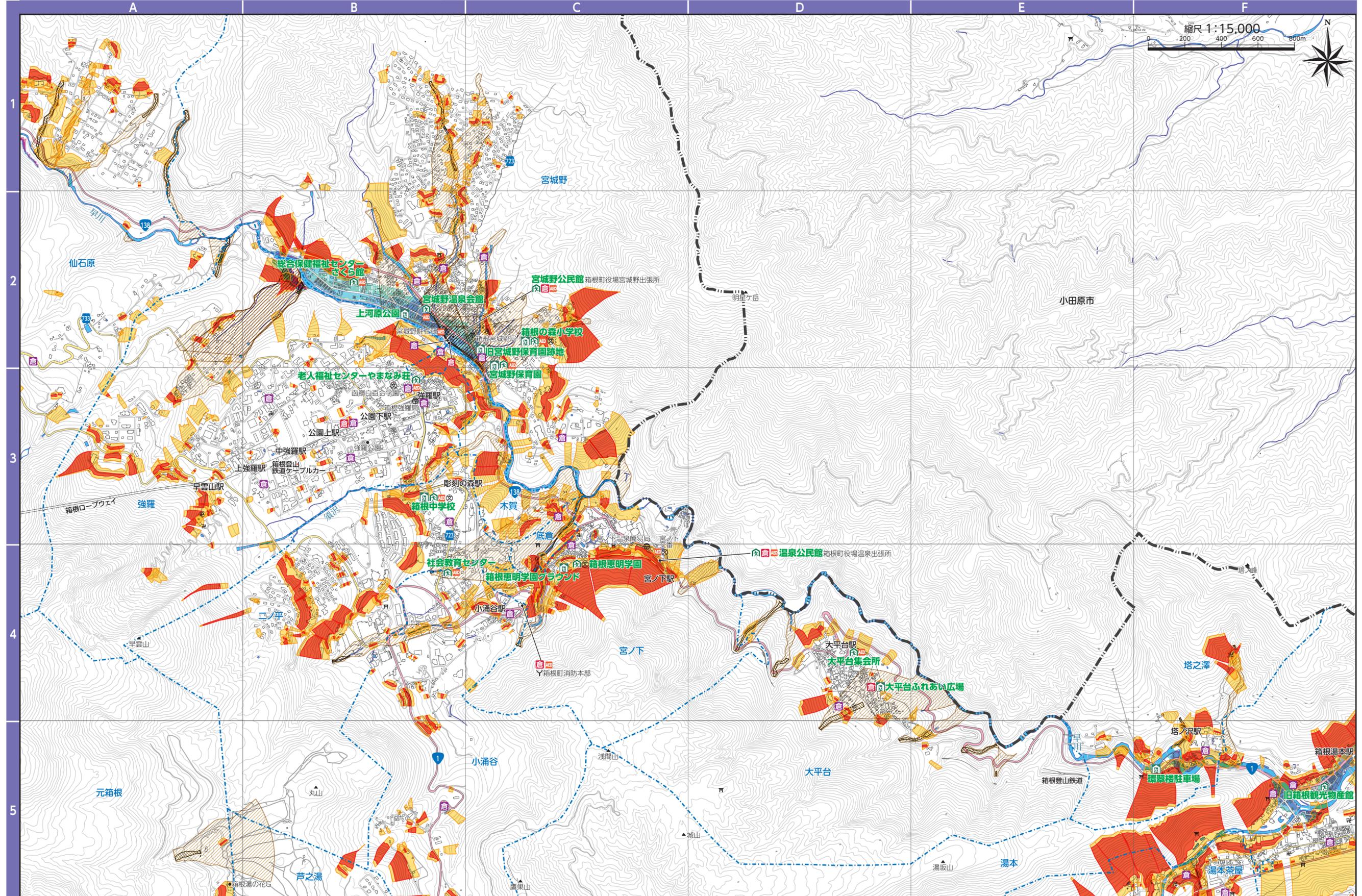
測量法に基づき国土院院長官製 (使用) R 2.84. 294-329号
この地図の作成に当たっては、国土院院長官の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。(承認番号 令和使 第 807-150号)
2022.02.10 最終版 (印刷)

はこね防災マップ (詳細図②)

避難場所・避難所等		
凡例	避難場所	町防災倉庫
	避難所	自主防災倉庫
		AED

土砂災害	
特別警戒区域 (急傾斜)	特別警戒区域 (土石流)
警戒区域 (急傾斜)	警戒区域 (土石流)

浸水想定区域		
0.5m未満の区域	1.0m～3.0m未満の区域	5.0m～10.0m未満の区域
0.5m～1.0m未満の区域	3.0m～5.0m未満の区域	10m以上の区域



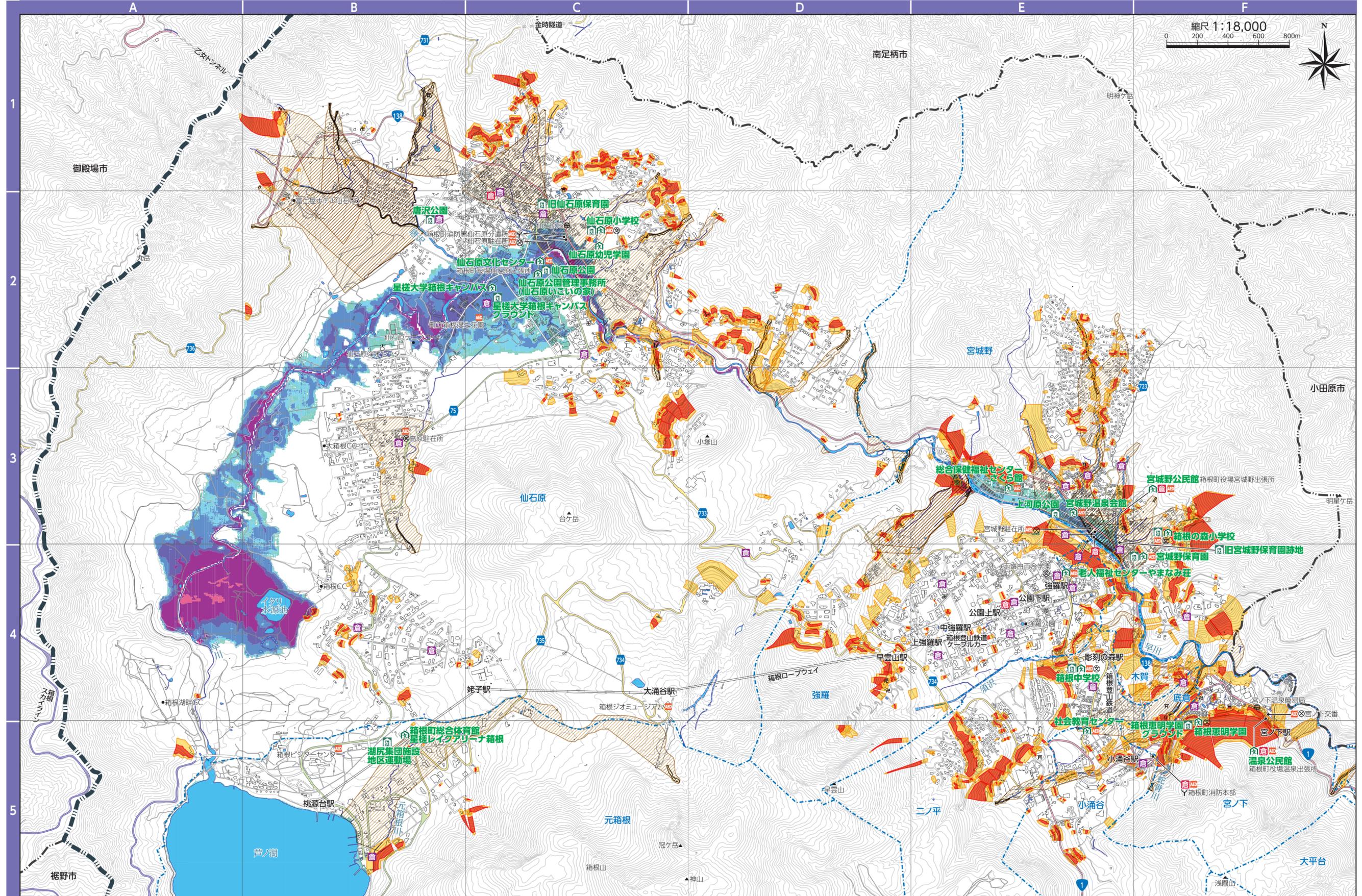
【製図法に基づき国土院院長事務 (使用) 2月4日 294-329号】
 【この図表の作成に当たっては、国土院院長事務の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。(承認番号 令元情使 第807-150号)】
 【2022.10 最新版】

はこね防災マップ (詳細図③)

避難場所・避難所等		
凡例		避難場所 (避難所)
		町防災倉庫
		自主防災倉庫
		AED

土砂災害	
	特別警戒区域 (急傾斜)
	警戒区域 (急傾斜)
	特別警戒区域 (土石流)
	警戒区域 (土石流)

浸水想定区域		
	0.5m未満の区域	1.0m～3.0m未満の区域
	0.5m～1.0m未満の区域	3.0m～5.0m未満の区域
	5.0m～10.0m未満の区域	10m以上の区域



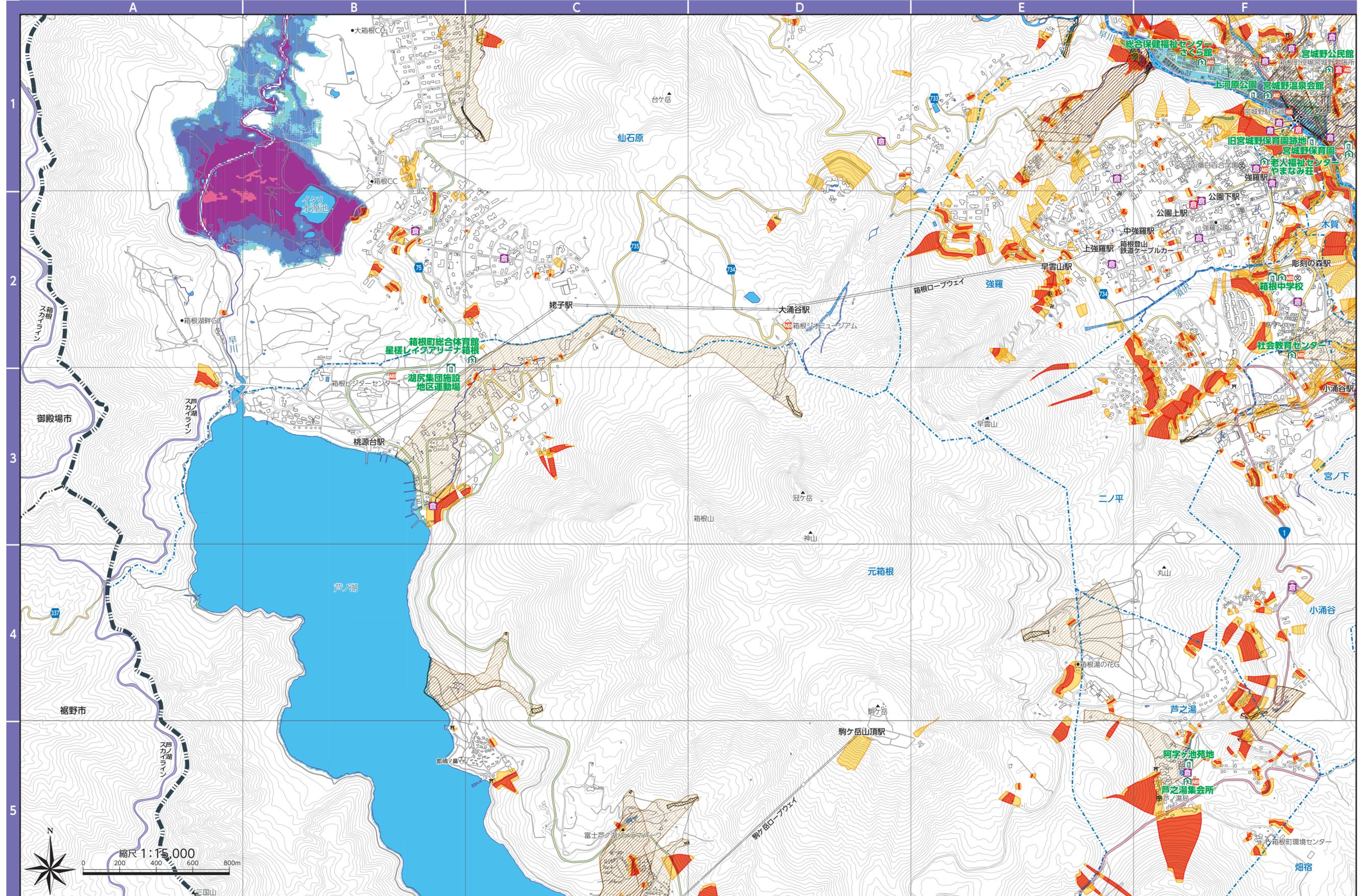
測量法に基づき国土院院長承認 (使用) 8 2月 294-329号
この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院長の承認を受けた地図情報を使用しました。(承認番号 令和 第 807-150号)
© 2024 国土院 (国)

はこね防災マップ (詳細図④)

避難場所・避難所等			
凡例	避難場所	町防災倉庫	AED
	避難所	自主防災倉庫	

土砂災害	
特別警戒区域 (急傾斜)	特別警戒区域 (土石流)
警戒区域 (急傾斜)	警戒区域 (土石流)

浸水想定区域		
0.5m未満の区域	1.0m~3.0m未満の区域	5.0m~10.0m未満の区域
0.5m~1.0m未満の区域	3.0m~5.0m未満の区域	10m以上の区域



測量法に基づき国土院院長承認 (使用) 第 234 号 294-329 号
 測量の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の基礎地図情報を使用した。(承認番号 令 807-150 号)
 1:5,000 縮尺 (国土地理院)

避難所・避難場所一覧

箱根町避難所一覧表（地震・風水害対応可）

令和2年3月1日現在

番号	名称	所在地	収容可能人員(人)	地図座標
1	湯本小学校	湯本399	200	①図E-2
2	湯本地域スポーツ施設	湯本855	200	①図F-2
3	湯本幼児学園	湯本392	35	①図E-2
4	旧箱根観光物産館	湯本698	40	①図E-2 ②図F-5
5	湯本仲町集会所	湯本392-2	30	①図E-3
6	山崎集会所	湯本132-1	50	①図F-2
7	大平台集会所	大平台353-1	70	①図C-1 ②図D-4
8	箱根恵明学園	宮ノ下413	200	①図A-1 ②図C-4 ③図F-5
9	温泉公民館	宮ノ下105	35	①図B-1 ②図C-4 ③図F-4
10	社会教育センター	小涌谷520	140	①図A-1 ②図B-4 ③図E-5 ④図F-2
11	箱根中学校	二ノ平1154	530	①図A-1 ②図B-3 ③図E-4 ④図F-2
12	老人福祉センター やまなみ荘	強羅1320-185	150	②図B-3 ③図E-4 ④図F-1
13	箱根の森小学校	宮城野225	200	②図C-2 ③図F-3
14	宮城野保育園	宮城野140	30	②図C-2 ③図F-4 ④図F-1
15	宮城野公民館	宮城野625	60	②図B-2 ③図E-3 ④図F-1
16	総合保健福祉センター さくら館	宮城野881-1	100	②図B-2 ③図E-3 ④図F-1
17	宮城野温泉会館	宮城野922	60	②図B-2 ③図E-3 ④図F-1
18	仙石原小学校	仙石原981	200	③図C-2
19	星槎大学 箱根キャンパス	仙石原817	450	③図C-2
20	仙石原幼児学園	仙石原981	30	③図C-2
21	仙石原文化センター	仙石原842	140	③図C-2
22	仙石原公園管理事務所（仙石原いこいの家）	仙石原870	20	③図C-2
23	箱根町総合体育館 星槎レイクアリーナ箱根	元箱根164-1	650	③図B-5 ④図C-2
24	元箱根集会所	元箱根63	60	⑤図D-3
25	箱根地域スポーツ施設	箱根561	170	⑤図C-4
26	箱根幼稚園	箱根561	30	⑤図C-4
27	箱根集会所	箱根221	60	⑤図C-5
28	芦之湯集会所	芦之湯90-1	30	④図F-5 ⑤図D-2

箱根町避難場所一覧表

番号	名称	所在地	収容可能人員(人)	地図座標
1	湯本地域スポーツ施設	湯本855	1,733	①図F-2
2	神明町公園	湯本190-1	760	①図F-2
3	湯本小学校	湯本399	1,467	①図E-2
4	畑宿寄木会館駐車場	畑宿103	267	①図B-4 ⑤図F-2
5	環翠楼駐車場	塔ノ澤115	167	①図D-2 ②図F-5
6	箱根恵明学園グラウンド	宮ノ下416	507	①図A-1 ②図C-4 ③図F-5
7	大平台ふれあい広場	大平台415	220	①図C-2 ②図D-4
8	上河原公園	宮城野921	439	②図B-2 ③図E-3 ④図F-1
9	箱根の森小学校	宮城野225	1,147	②図C-2 ③図F-3
10	宮城野保育園	宮城野140	400	②図C-2 ③図F-4 ④図F-1
11	旧宮城野保育園跡地	宮城野102	300	②図C-2 ③図E-3 ④図F-1
12	箱根中学校	二ノ平1154	1,633	①図A-1 ②図B-3 ③図E-4 ④図F-2
13	唐沢公園	仙石原555	833	③図B-2
14	旧仙石原保育園	仙石原106	300	③図C-2
15	仙石原小学校	仙石原981	1,600	③図C-2
16	仙石原公園	仙石原842	2,832	③図C-2
17	星槎大学箱根キャンパスグラウンド	仙石原817	3,167	③図C-2
18	湖尻集団施設地区運動場	元箱根164	2,167	③図B-5 ④図B-3
19	箱根集会所駐車場	箱根221	270	⑤図C-5
20	県営駐車場及び園地	箱根181	3,500	⑤図C-5
21	湖畔伊豆箱根船舶広場	箱根10	230	⑤図C-3
22	元箱根集会所	元箱根63	320	⑤図D-3
23	箱根地域スポーツ施設	箱根561	947	⑤図C-4
24	阿字ヶ池苑地	芦之湯90	400	④図F-5 ⑤図D-2

避難所生活での心得



避難所では、お互いに助け合って共同生活を送ることが基本です。ルールとマナーを守り、みんなで支え合ひましょう。

共同生活

- リーダー、副リーダーを置き、避難所運営のためのルールや各自の役割分担を決めましょう。
- 一部の人だけに負担がかからないようにみんなでできることを分担し協力し合ひましょう。
- 災害時要配慮者と女性に配慮しましょう。

生活環境を衛生的に

- 室内の清掃や整理整頓に努めましょう。
- トイレの清掃・消毒は定期的に行い、衛生管理には十分注意を払いましょう。
- ゴミは所定の場所へ置きましょう。

感染予防

- 手洗いとうがいを入念にしましょう。
- 熱や咳、くしゃみの出ている人、介護を行う人はマスクをしましょう。

知っておくべき5つのポイント

避難とは[難]を[避]けること。
安全な場所にいる人まで避難所に行く必要はありません。



町が指定する避難所・避難場所が変更・増設されている可能性があります。災害時には町ホームページ等で確認して下さい。



避難先は、小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。



マスク・消毒液・体温計が不足しています。できるだけ自ら携行して下さい。



豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊をする場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分確認して下さい。



町民の皆さんに平常時からお願いしたいこと

自宅の安全性の再確認

ハザードマップで、自宅の安全性や避難の必要性を再度、確認してください。



分散避難の検討

避難所が過密状態になることを防ぐため、分散避難を検討してください。

- 在宅避難（自宅の安全性が確保できる方）
- 安全な親戚や知人宅への避難
- 車中避難（安全な駐車場が確保できる方）

避難所生活での留意事項

- 町が開設する避難所では、感染症対策のため、
- 避難者全員の検温・手指消毒・マスクの着用
 - 身体的距離の確保
 - 定期的な換気
 - 定期的な避難者の健康状態の確認
- などを徹底します。

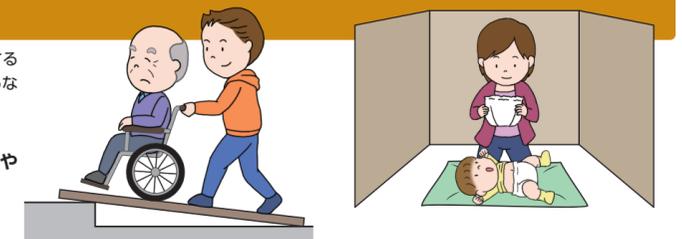
なお、避難所生活では以下の事項に留意してください。

- マスク、体温計、ウェットティッシュなどの衛生用品は、なるべくお持ちください。
- こまめに手洗い（食事前、トイレ使用後など）を励行するとともに、咳エチケットなど基本的な感染対策を徹底してください。
- 町（避難所担当職員または保健師）が行う、避難者の定期的な健康状態の確認にご協力ください。
- 発熱や咳の症状がある場合は、速やかに避難所担当職員に申し出てください。

災害時要配慮者への支援

災害時に高齢者、障がい者、乳幼児、外国人などの特に配慮を必要とする方を「災害時要配慮者」といいます。避難所でもちょっとした工夫でみんなが生活しやすい環境が整えられます。

- 車いすが通行できるように、バリアフリー
- オムツの交換や補装具の交換が必要な場合に、間仕切りやカーテンを設ける



自主防災組織

自主防災組織の役割

平常時と災害時における自主防災組織の役割としては、次のようなことが考えられます。いざというときに組織力を発揮できるよう、平常時からみんなで協力し合いながら防災活動に取り組みましょう。

平常時の活動

防災知識の普及

防災マップの作製、防災講習会への参加、防災知識の共有など。



防災巡視・防災点検

各家庭の防災用品の点検、防災倉庫の備品や消防水利の確認、燃えやすいものの放置状況、ブロック塀や石垣、看板、自動販売機など、倒れやすいものの点検など。



防災資機材の整備

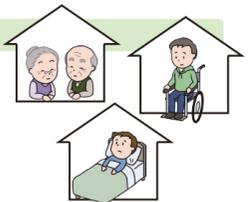
ヘルメット、消火器、担架、ハンマー、バール、大型ジャッキなどの作業道具、非常食品、救急医薬品等の防災資機材や備蓄品の管理など。



災害時要配慮者対策

災害時要配慮者の把握・見守り、担当者の確認など。

※避難行動要支援者対策ともいいます。



防災チェックポイント

自主防災組織はなぜ必要なのでしょう？

自主防災組織とは、地域住民が連携し防災活動を行う組織のことをいいます。日ごろは、防災知識の普及啓発、防災訓練や地域の防災安全点検の実施、防災資機材の備蓄といった活動に取り組みます。そして、いざ災害が起きたときには、避難所の開設・運営、住民の避難誘導、初期消火活動の協力などに従事します。特に大地震のような大規模な災害時には、津波の襲来、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災などで、自治体や消防、警察なども、同時にすべての現場に向かうことはできません。そのような事態に備え、地域住民が連携して地域の被害を最小限におさえることが自主防災組織の役割です。あなた自身とあなたのまちを守るために自主防災活動へ積極的に参加し、「災害に強いまち」をつくりあげましょう。

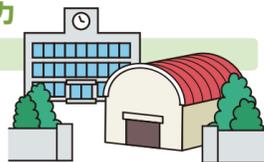


災害時の活動

避難所の開設・運営への協力

避難所の開設

避難所の解錠・開設、避難所施設の状況確認、避難者誘導・受け入れ、避難者の居住場所と業務の割り振りなど。



避難誘導

地域住民等の安否確認、避難所への誘導、災害時要配慮者の安否確認・援助など。



情報収集・消火・救出救護

情報の収集・伝達

自治体などと連絡を取り合い、災害に関する正しい情報を住民に伝達する。



救出活動

負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出・救助活動など。



食料・物資関係

備蓄食料や救援物資等の避難所への運搬および配付、炊き出しなど。



衛生管理

水の確保・トイレの清掃、ゴミの搬出保管、施設内の清掃など。



初期消火活動

出火防止のための活動や消火器、消防水利の確保、バケツリレーなどによる初期消火活動など。



医療救護活動

負傷者の応急手当て、救護所への搬送など。



地域の防災対策

自助・共助・公助の連携(相互協力)

自らの身は自ら守ることで。主に事前の防災対策から、他人に頼れない発災時に、災害での命を左右するのは、自助努力にかかっています。

個人や一家庭の力だけではどうにもならない状況において隣近所同士で助けあうことです。特に、発災直後から避難や後片付けの段階では、必要となります。

自助

自分や家族

- 家具の固定、住まいの耐震化
- 飲料水、食料品の備蓄 など

共助

隣近所、自主防災組織、災害ボランティアなど

- 防災訓練の実施
- 地域に住む要配慮者に対する支援 など

公助

市区町村、都道府県、国、消防、警察、自衛隊など

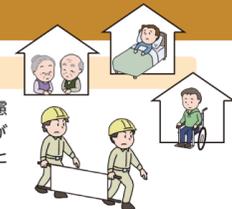
町民の力では、どうにもならない状況での最後の受け皿といえるでしょう。避難所運営をはじめ被災生活から、仮設住宅や給付金など、生活再建段階で力となります。

- 防災対策の推進
- 自助、共助に対する支援 など

要配慮者のために

災害のとき配慮が必要な人に優しく接しよう

突然起きる災害のときに、大きな被害を受けやすいのは要配慮者と呼ばれる人たちです。要配慮者とは、高齢者や子ども、障がいのある人、外国人など配慮が必要な人たちのことです。いざというときは地域の人みんなで協力して要配慮者を支援しましょう。



高齢者・病人

あらかじめ支援者を決め、複数人で対応し、車いすや担架を使うほか緊急時はおぶって避難します。



要配慮者になったつもりで防災環境の点検を

目や耳の不自由な人や外国人に向けた警報・避難方法が正しく伝えられるのか、放置自転車などの障害物は無いかなど、日ごろからの点検が大切です。



目の不自由な人

まずは声をかけ、誘導するときは腕を貸してゆっくりと歩きます。できるだけ状況を言葉にして伝えましょう。



避難するときはしっかり誘導する

一人の避難行動要支援者*に複数の住民が支援していくなど、具体的な配慮体制を決めておきましょう。隣近所での助け合いがとても大切です。
*要配慮者のうち、避難する際に特に支援が必要な方を避難行動要支援者といいます。



耳の不自由な人

お互いに顔が向き合う形で、大きく口を動かし話しかけます。伝わりにくい場合は、身ぶり・筆談で伝えます。



困ったときこそ温かい気持ちで

非常時こそ、不安な状況に置かれている人に優しく接することが必要です。困っている人や要配慮者には思いやりの心を持って支援しましょう。



車いす利用者

階段では2人以上で援助し、昇りは前向き、降り時は後ろ向きに移動します。1人の時はおぶって避難します。



日ごろから積極的なコミュニケーションをとりましょう

災害のときに円滑な支援活動をするために、日ごろからコミュニケーションをとっていることがとても大切です。



旅行者・外国人

孤立させないように話しかけます。通じない場合は、身ぶり手ぶりで伝え、道順などは手で方向を示します。



災害時のペット対策

飼い主の役割とは

常に飼い主としての責任を果たす「心構え」を持つことです。ペットを飼う権利とともに果たさねばならない義務を常に意識し、平常時から災害に対する「十分な備え」をしましょう。耐震補強等により自宅の被害を最小限に抑え、また物資の備蓄をし、災害時でも在宅で生活できる備えをすることが、ペットにとっても大切なことです。



ペットを守ること

災害からペットを守ることができるのは、飼い主だけです。つぎの3点が重要となります。

- ① 飼い主自らの安全を確保すること
→ 災害時にペットを適切に飼養するための絶対条件
- ② 平常時から適正な飼養(健康面・しつけ等) → 最も有効な災害対策
- ③ ペットと共に避難 → 災害時はペットを落ち着かせ、逃走・けが等に注意



防災でのキーワード：「自助」「共助」

自助 ペットの分の食料なども備えておきましょう

共助 近隣住民や飼い主同士の助け合い、広域の助け合い、他の組織を交えた助け合い

大規模な災害では、行政機関等の公的機関による支援が始まるまでの間、自助や共助により乗り越えなければなりません。飼い主には、まず自分の安全を確保し、そのうえでペットの安全と健康を守り、他者に迷惑を掛けることなく、ペットを適正に飼養管理する義務があります。



備えるべき物品の例

ペットフード、水、ペットシート、薬、リード、ケージ、鑑札、狂犬病予防注射済票など

災害によるペットへの被害の事例

災害時

- 家屋倒壊・転倒家具によりペットが死亡した。
- 床への飛散ガラスで人もペットも足にけがをした。
- 外飼い猫が被災当日から自宅に戻らず、同行避難できない。



避難先

- 避難してしばらく、人の支援物資はあるが、ペットフードの支援はなかった。
- 避難所で犬が吠えて迷惑を掛けるので、止むを得ず車中で避難生活をした。
- 糞の放置や毛の飛散などが原因で、他の避難者とトラブルにあった。
- 救援物資のペットフードを食べなくて困った。
- 避難所にペットと共に避難したが、特定食(治療食など)の入手に苦労した。
- 犬がケージに慣れていない為、過度なストレスを与えてしまった。
- 犬がペットシートに排尿・排便せず苦労した。
- 他人や他の場所、他の動物に慣れない為、何処にも預けることができなかった。
- 感染症の予防接種をしていないペットが多いため、感染が心配だった。



被災時に役立つ情報

住まいが被害を受けたとき最初にすること

災害で住まいが被害を受けたときは、あまりのショックに、何から手を付けたらいいかわからなくなるかもしれません。被災者の方々が一日も早く日常生活を取り戻せるように、行政や災害ボランティアなども様々な支援に動き出します。それらの支援も受けながら、一歩ずつ再建を進めて行きましょう。



1 被災した時に最初にすること

住まいが被害を受けたときは、早く家の片付けや修復作業に取り掛かりたいかもしれませんが、しかし、その前にまずやっておきたい重要なことがあります。

被害状況を写真で記録する

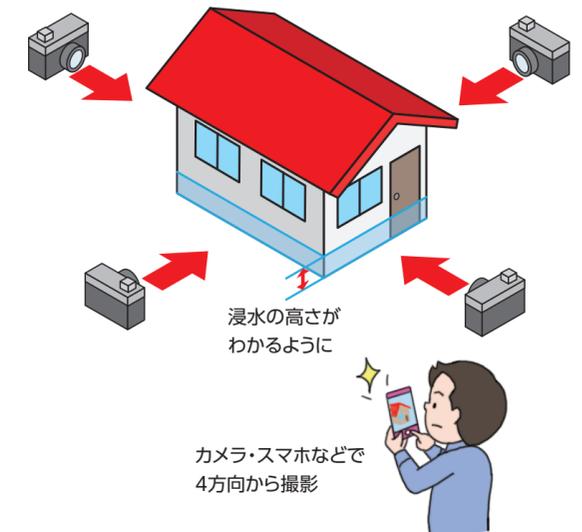
家の被害状況を写真に撮っておきましょう。市区町村から災害証明書を取得して支援を受ける際や、損害保険を請求する際などに、たいへん役立ちます。

家の外の写真の撮り方のポイント

- カメラ、スマホなどでなるべく4方向から撮る。
- 浸水した場合は浸水の深さも分かるように撮る。

家の中の写真の撮り方のポイント

- 被災した部屋ごとの全景を撮る。
- 被災箇所に「寄った」写真を撮る。



2 片付けや復旧作業をするとき

被災した住まいの片付けや修復作業は、ほこりなどを避け、釘や木材などでけがをしないような服装で行いましょう。焦らずに、体調を管理しながら作業を進めましょう。ボランティアの支援が得られることもありますので、手助けが必要なときは、災害ボランティアセンターに相談しましょう。

作業時の服装と注意点

- クギや木材でケガをしないよう肌の露出を避けます。
- ホコリや砂を避けるようマスクなどをします。
- こまめに水分を取り、休憩をとることも大切です。

3 災害証明書と住まい・生活への公的支援

災害証明書は、災害による住宅の被害の程度を証明するものです。支援金や災害義援金の受け取り、税金などの減免、仮設住宅への入居申請などの際に必要となります。

災害証明書の発行手続き

発行の窓口は市区町村です。申請すると、市区町村職員による被害認定調査が行われ、後日、調査結果に基づき災害証明書が発行されます。手続きには、申請書・身分証明書などが必要になります。詳しくは、箱根町総務防災課にお問い合わせください。

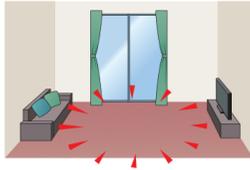
参考：政府広報オンライン <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202003/2.html>

わが家の防災対策

家の中の安全対策

1 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめておく。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。



2 寝室、子供やお年寄りのいる部屋には家具を置かない

就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性があります。



3 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



4 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

玄関などの出入口までの通路に、家具などが倒れやすいものを置かない。また、玄関にいるようなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



5 電気火災発生の防止

大地震が発生した際には、多数の火災が発生し、多くの人が命や財産を失っています。地震火災の原因の多くは電気が関連しており、電気機器等(電気ストーブ、電気コンロ等)の転倒による出火や、電気復旧時における通電火災(破損した電気コードのショートによる出火等)があります。このような電気火災を防ぐため、感震ブレーカー※等を設置しましょう。



※感震ブレーカーは、あらかじめ設定した震度以上の地震が発生した場合に、自動的に電気の供給を遮断しますので、電気による出火防止に効果的です。

家具の転倒、落下を防ぐポイント

タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



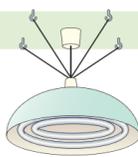
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下に、軽い食器は上の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



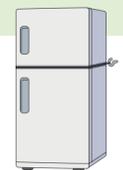
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



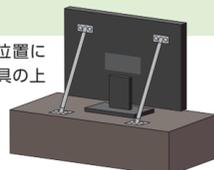
冷蔵庫

2ドアの場合は、扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



ピアノ

本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

屋根

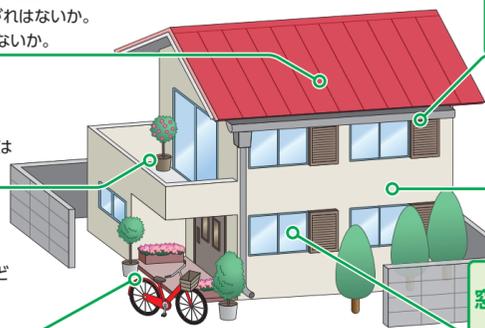
不安定な屋根のアンテナの補強。瓦のひび、割れ、ずれ、はがれはないか。トタンのめくれ、はがれはないか。

ベランダ

鉢植えや物干し竿など飛散の可能性が高いものは室内へ。

植木鉢、自転車など

植木鉢、自転車など飛びそうなものは固定する。



雨どい・雨戸

雨どいに落ち葉や砂が詰まっていないか。縦じ目の外れや塗装のはがれ、腐りはないか。雨戸にガタツキやゆるみはないか。

外壁

モルタルの壁に亀裂はないか。板壁に腐りや浮きはないか。プロパンガスのボンベは固定されているか。

窓ガラス

ひび割れ、窓枠のガタツキはないか。強風による飛来物などに備え、飛散防止フィルムを貼る、外側から板でふさぐなどの処置を。

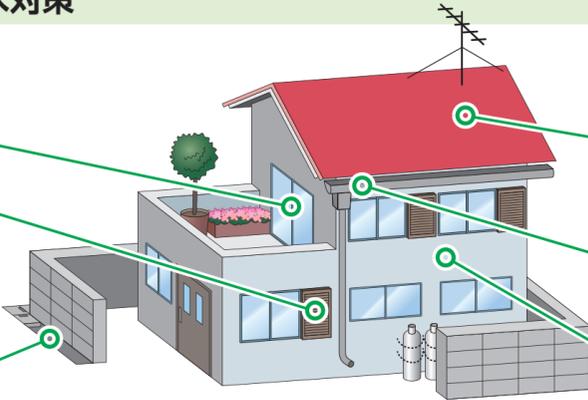
家庭でできる浸水対策

1 家の周囲の浸水対策

窓ガラスのひび割れ、サッシのガタの確認

雨戸のガタや緩みの確認

側溝が詰まると、道路冠水や浸水の原因になります。日頃からの清掃にご協力をお願いします。



瓦やスレートの割れ、ズレ、めくれなどの確認

雨どいの破損や、落ち葉などの詰まりの確認

外壁の亀裂や穴などの確認

2 浸水を防ぐには

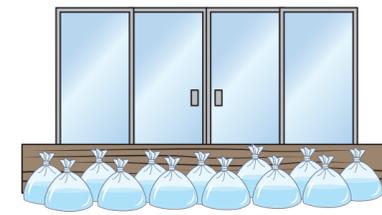
簡易水のう

ごみ袋を重ね合わせ、水を半分入れて口を縛る。



簡易止水板

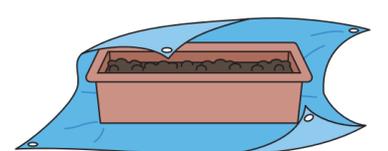
浸水しそうな場所に長めの板を置き、水のうで固定する。



浸水しそうな場所に敷き詰める。段ボールに入れると強度が増す。

プランター

土の入ったプランターにレジャーシートを巻き付けて止水板の代わりにする。



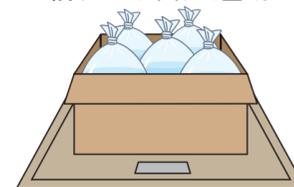
3 逆流を防ぐには

排水管から逆流してくるので、水のうで排水溝を塞いでおく。



閉めたふたの上にも水のうを置くとよい。

床下収納の上には段ボールに入れて置く。



念のため、大事なものは2階や棚の上に上げておこう。



災害時に使える英会話

災害発生時

ケガはありませんか?
アーユーインジュアード?
Are you injured?

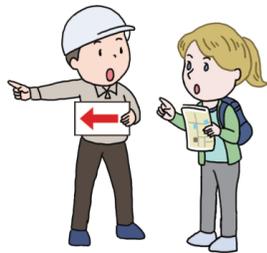
気を付けてください。
プリーズ ウォッチアウト
Please watch out.
プリーズ ビーケアフル
Please be careful.

非常口はこちらです。
アンエマージェンシードアイズ ディスウェー
An emergency door is this way.

ここは安全です。
イッツセーフ ヒア
It's safe here.

落ち着いてください。
カムダウン
Calm down.

係員の指示に従ってください。
プリーズ フォローザスタッフスインストラクション
Please follow the staff's instruction.



地震

地震です。
イッツアンアースクエーク
It's an earthquake.
アースクエーク!
Earthquake!

机の下に隠れてください。
ゲット アンダーザテーブル
Get under the table.

余震に気を付けてください。
プリーズ ウォッチアウト フォー ジ アフタッシュック
Please watch out for the aftershock.



大雨・洪水

台風が近づいています。
タイフーン/ストームイズカミング
Typhoon/Storm is coming.

氾濫の危険があります。川に近づかないでください。
ゼアイズアリスク オブアフラッド、ソープリーズステアアウェーフロムザリバー
There is a risk of a flood, so please stay away from the river.

土砂崩れの危険があります。山に近づかないでください。
ゼアイズアリスク オブアランドスライド、ソープリーズステアアウェーフロムザマウンテンズ
There is a risk of a landslide, so please stay away from the mountains.



火事

火山ガスが発生しています。
ヴォルカニック ガシズ アー エミテッド
Volcanic gases are emitted.

建物に逃げてください。
プリーズ エバキューエイト トゥ ビルディング
Please evacuate to building.



停電・断水

停電しています。
パワーイズダウン
Power is down.
イットイズパワーアウトエージ
It is power outage.



断水しているためトイレは使用できません。
トイレットイズアウト オブオーダー ビューズ オブウォーターアウトエージ
Toilet is out of order because of water outage.

交通機関の影響

電車が運休しています。
トレインズ アーアウト オブ サービス
Trains are out of service.

電車の運行が再開されました。
ザトレインズバックランニング
The train is back running.

交通機関の運行については、状況がわかりましたらお知らせします。
ウィウィル アプデイト ユー ワンス ウィ ハブ インフォメーション オン パブリック トランスポーテーション
We will update you once we have information on public transportation.



応急手当

心肺蘇生法の手順

1 意識があるかを確認する

耳元で呼びかけながら軽く肩を叩き、反応の有無を確認します。反応がなければ、助けを呼び、119番通報とAEDの手配を依頼します。



2 呼吸の有無を確認する

胸と腹部の動きを見て、「普段どおりの呼吸」をしているか、10秒以内で確認をします。

呼吸がある場合には、体を横向きに寝かせ、下あごを前に出して気道を確保し、上側の手の甲に顔をのせます。さらに上側の膝を約90度曲げ、あお向けにならないようにして救急車を待ちます。(回復体位)

3 呼吸がなければ胸骨圧迫を行う

呼吸がない場合は、以下の手順で胸骨圧迫を行います。

- 1 傷病者を平らな場所にあお向けに寝かせ、救助者はその横わきに両ひざ立ちになります。
- 2 乳頭と乳頭を結んだ胸の真ん中に片方の手のひらの手首に近い部分を当て、その上にもう一方の手の手首を重ねます。
- 3 ひじを伸ばし、胸が約5cm沈むように押します。この動作を1分間に100～120回のリズムで、絶え間なく30回行います。

小児の場合は両手または片手、乳児の場合は2本の指で、胸の厚さの3分の1程度沈むように押します。



4 胸骨圧迫の後、人工呼吸を2回行う

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回を繰り返して行います。

<人工呼吸の方法>

- 1 気道を確保したまま、傷病者の鼻をつまみます。大きく口を開けて傷病者の口をおおい、1秒かけてゆっくりと息を吹き込みます。吹き込みながら胸が上がるのを確認します。
- 2 いったん口を離し、もう1回吹き込みます。

小児・乳児の場合は、口と鼻を同時におおい、1秒かけて息を吹き込みます。
※口と口の人工呼吸がためられる場合、血液や嘔吐物などにより感染危険がある場合などは、人工呼吸を行わず、胸骨圧迫のみを続けます。

5 AEDが到着したら

AEDによる電気ショック(除細動)は、心停止の傷病者の救命に大変有効な手段です。心肺蘇生法を行っている途中でAEDが届いたら、AEDによる応急手当を優先させましょう。電源を入れると音声メッセージとランプで実施すべきことを指示されますので、それに従ってください。

おおよそ6歳ぐらまでは、小児用電極パッドを貼ります。小児用電極パッドがなければ、成人用の電極パッドを代用します。



AEDマップ

箱根町に存在するAEDは、ハザードマップに記載されている箇所の他に、一般財団法人日本救急医療財団が運営している全国AEDマップで検索をしたり、地図上で確認することができます。

全国AEDマップは、一般財団法人 日本救急医療財団のホームページ (<https://www.qqzaidanmap.jp>) にてご確認ください。

※バーコードリーダー機能付き携帯電話・スマートフォンをお持ちの方は、下記QRコードからアクセスができます。



マイ・タイムライン

台風の接近・上陸に伴うタイムライン (防災行動計画)

マイ・タイムラインとは、台風の接近によって河川の水位上昇が予想される時などに、自分自身がとる防災行動を時間ごとに整理した個人防災計画です。台風を想定したタイムラインでは、台風が直撃する「3～2日前」「1日前」「半日前」「5～3時間前」など、時間ごとにどのような行動をとるか整理します。

※下記はマイ・タイムライン作成の一例です。
国土交通省のサイト「Webでマイ・タイムライン」(<https://www.ktr.mlit.go.jp/river/bousai/mytimeline/>)からも、手軽にタイムラインを作成することができます。

ハザードマップと避難場所、避難の合図となる情報を確認

避難指示などの避難情報や土砂災害情報など、どの情報が出たら避難を開始するか確認します。

災害発生前までにとるべき基本的行動を考える

今後の台風を調べ始める、川の水位を調べ始める、非常用持ち出しバッグをチェックする、避難しやすい服装に着替える、安全なところへ移動を始める、など基本的な行動とその順番を考えます。
●P37「備蓄品および非常時持ち出し品」

家族や家庭の特徴を加味する

車を持っている、祖父母と同居しているなど、自分の家庭にのみあてはまる状況を確認し、自分たちに必要な行動を考えます。
●P38「わが家の防災メモ」

時間ごとに整理してタイムラインの完成

基本的行動と家族のために必要な行動を以下のように時間ごとに並べます。



備蓄品および非常時持ち出し品

わが家の防災メモ

非常時持ち出し品 (とっさの場合に持ち出せるようにリュックサックにつめておきたい)

- | | | | |
|--|--|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 現金 | <input type="checkbox"/> アメ・チョコレート | <input type="checkbox"/> ライター・マッチ | |
| <input type="checkbox"/> 保険証 | <input type="checkbox"/> 栄養補助食品 | <input type="checkbox"/> 下着・靴下・タオル | |
| <input type="checkbox"/> 預金通帳 | <input type="checkbox"/> 飲料水 | <input type="checkbox"/> 防寒用ジャケット・雨具 | |
| <input type="checkbox"/> 印鑑 | <input type="checkbox"/> 缶切り | <input type="checkbox"/> 長袖・長ズボン | |
| <input type="checkbox"/> 免許証 | <input type="checkbox"/> レジャーシート | <input type="checkbox"/> 厚手の手袋・マスク | |
| <input type="checkbox"/> 救急箱・除菌シート・消毒液 | <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ | <input type="checkbox"/> 携帯用カイロ | |
| <input type="checkbox"/> 胃腸薬・便秘薬・持病の薬 | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 | <input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん | |
| <input type="checkbox"/> 食品 | <input type="checkbox"/> 乾電池・モバイルバッテリー | <input type="checkbox"/> カッター | |
| | | <input type="checkbox"/> 生理用品 | |
| | | <input type="checkbox"/> 歯ブラシ | |

備蓄品 (少なくとも3日は自力で生活できるように準備)

- | | |
|--|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 食品(レトルト食品、アルファ米、缶詰など) | <input type="checkbox"/> カセットコンロ |
| <input type="checkbox"/> 飲料水(一人1日3リットル程度) | <input type="checkbox"/> ラップフィルム |
| <input type="checkbox"/> 給水用ポリタンク・給水袋 | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー・ウエットティッシュ | <input type="checkbox"/> 工具セット |
| <input type="checkbox"/> 紙皿・紙コップ・割り箸 | |
| <input type="checkbox"/> ビニール袋 | |

乳幼児・高齢者がいる家庭

- オムツ 粉ミルク 液体ミルク 常備薬

女性の場合

- 生理用品

ローリングストック法

備蓄の新しい方法

普段から少し多めに食材、加工品を買っておき、使ったら使った分だけ新しく買い足していくことで、常に一定量の食料を家に備蓄しておく方法をローリングストック法と言います。ローリングストック法のポイントは、日常生活で消費しながら備蓄することです。また、ローリングストック法は、食料だけでなく、日常使いできている生活用品(ウエットティッシュ、カセットボンベ、乾電池、使い捨てカイロなど)にも応用することができます。ローリングストック法で備蓄する食料と合わせて備えたいカセットコンロとガスボンベも、日常で使いながら、常にガスボンベは一定量を確保しておきましょう。

冷蔵庫・冷凍庫の食材を活用

食パンや野菜等は自然解凍により食べる事も可能。



冷蔵庫に食材を買い置きし、冷凍庫にもご飯や食パン、野菜、冷凍食品等の備蓄を。

氷は溶かして飲料水として活用も可能。



停電時、クーラーボックスや保冷剤等を活用して食材の保存を。

調理器具の備え

カセットボンベ1本で約60分使用可能。

1ヶ月で約15本必要(1日30分使用の場合)。



カセットコンロ・ボンベ 停電時等、冷蔵庫の食材や非常食を調理するために必須。

ローリングストック法で備蓄した非常食を活用

ローリングストック法

定期的(1ヶ月に1、2度)に食べて、食べた分を買い足し備蓄していく方法。食べながら備えるため、消費期限が短いレトルト食品等も非常食として扱えます。



その他備蓄しておくの良いもの

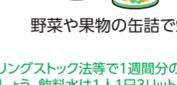
乾麺(ラーメン・パスタ等) ゆで時間の短いものを。



フリーズドライ食品(スープ等) スープ類は食欲が無い時でも摂取可能



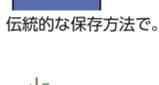
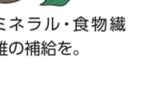
缶詰 野菜や果物の缶詰で栄養を。



その他のアイデア

乾物 ミネラル・食物繊維の補給を。

漬物 伝統的な保存方法。



家庭菜園 庭やベランダ等も活用して菜園を。



※上記の日数・組み合わせは一例です。ローリングストック法等で1週間分の非常食を蓄えておくより安心です。 ※1週間分の飲料水、また生活用水も備えましょう。飲料水は1人1日3リットル×家族分の準備を。

参考文献：一般財団法人 日本気象協会ホームページ「トクする！防災」/内閣府ホームページ「防災情報のページ」

非常時に連絡しなければならない方などをメモしておく頁です。事前に電話番号などを記入しておきましょう。

住所			
氏名		電話	

避難所	地震の時	避難所
	風水害の時①	家族が離ればなれになった時の避難所
	風水害の時②	家族が離ればなれになった時の避難所

家族の連絡先	氏名	電話(会社・学校)	住所	メモ

親戚知人の連絡先	氏名	電話(会社・学校)	住所	メモ

家族の救急用データ	氏名	生年月日	血液型	アレルギー	常備薬	病歴

緊急連絡先	連絡先	電話	連絡先	電話

災害用伝言ダイヤル(171)の使い方

災害用伝言ダイヤルとは?

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

伝言の録音	171 - 1 - 0××× - ×× - ×××× (電話番号)	伝言内容	1伝言あたり30秒以内
伝言の再生	171 - 2 - 0△△△ - △△ - △△△△ (電話番号)	伝言保存期間	録音してから48時間
ダイヤルする電話番号	被災地域の方は自宅の電話番号を、または連絡をとりたい被災地域の方の電話番号を市外局番からダイヤルしてください。	伝言蓄積数	1電話番号あたり10伝言まで
		利用可能電話	一般電話(プッシュ回線、ダイヤル回線)、公衆電話、携帯電話(一部除く)等